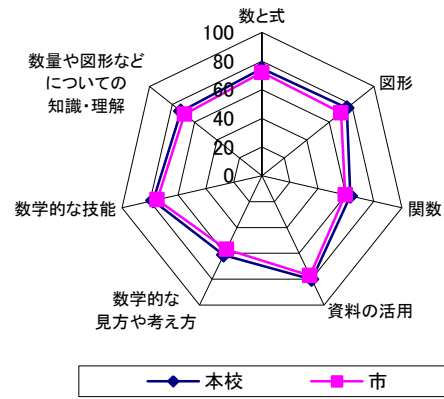


宇都宮市立古里中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	74.7	72.1	70.7
	図形	75.8	70.5	58.1
	関数	63.3	59.6	52.1
	資料の活用	80.2	77.2	64.1
観点別	数学的な見方や考え方	61.3	56.9	47.7
	数学的な技能	77.8	74.9	69.2
	数量や図形などについての知識・理解	72.2	68.9	59.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (数学では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正・負の数、文字式、根号を含む計算はよくできている。 ● x の2乗の係数が1でないとき、公式 $3 \cdot 4$ を使って因数分解することに気づけず、正答率は52%であった。 ○1次方程式・連立方程式・2次方程式を解くことができている。 ●因数分解を使って2次方程式を解く方法をこぼで説明する問題の正答率は27.6%と低い。	ほとんどの生徒が基本的な計算力を身につけているので、今後も授業の始めに行う豆テストや、単元ごとの計算テストを行っていく。また、授業において、少々複雑な計算練習も多く取り入れることにより、幅広く計算できる力を養っていきたい。さらに、考え方や計算の仕方を説明する場面を授業に積極的に取り入れていきたい。
図形	○図形の性質を理解しており、それをもとに角度を求めたり作図をしたりできていた。 ○証明の過程において図形の性質を指摘できた生徒が80%以上おり、また、図形の証明に積極的に取り組み、正しく証明を書くことができた生徒は57.2%で、宇都宮市の平均より3%高い。	生徒が比較的簡単と感じる角度や長さを求める問題は、実は図形の性質を理解して初めて求められるものであることを自覚させ、図形の学習内容が身につけていることを自覚させたい。その上で、図形の証明に積極的に正しく証明を書くことができる生徒が多いので、授業中に自分で正しく証明できたことを自覚できる場面を多く用意し、一人一人が意欲と自信を持って証明問題に取り組めるようにする。
関数	○関数の式作りがよくできていた。 ○文章問題を読み取り、問題文中の x と y の関係を正しく表すグラフを選ぶ問題の正答率は41.6%であったが、宇都宮市の平均より4.5%高い。 ● x の2乗に比例する関数で、 y の変域を求める問題では、正答率は68%であったが、宇都宮市の平均より5.6%低い。	数学的な内容の習熟で終わらせるのではなく、具体的な場面にあてはめて考えることにより、関数の学習をより深く学ばせていきたい。また、 y の変域の問題については、2乗に比例する関数に止まらず、比例・反比例や1次関数も含めて練習問題に多く取り組み、グラフをもとに変域を求める考え方を身につけさせたい。
資料の活用	○資料の活用、確率ともに良好であった。	練習問題を多く解くことにより、さらに習熟を高めさせたい。また、身近な題材を取り上げて学習できる領域であり、生徒の関心を高めながら学習をさせていきたい。